



「神奈川にもキリストの愛に溢れた高齢者施設を造る」というビジョンを与えられたのは2009年の暮れのことでした。私と妻と息子の3人で、当時神戸のグループホームでケアを受けていたある姉妹を訪問したとき、その主人から「息子さんも看護師なら、ぜひ質の良いクリスチャンのホームを造ってくださいよ」と熱く励まされました。不思議なことに帰りの車中で3人が3人とも「これは主から与えられた使命である」と強く感じ、このことを巡っていろいろと語り合いました。

でもいったいどうやって…
みこころに叶ったビジョンは必ずなる、と信じているものの、介護に関しては何の経験もない私達としては、どこからどの様に手を着けたらよいか見当もつかない状態でした。しかし、私には一つのモデルがありました。それは今から約30年前、筑波に建てられた「筑波キングス・ガーデン」の創始者、三谷六郎ご夫妻です。三谷氏は生涯を宣教に捧げた牧師・伝道師が引退後非常に厳しい状況にあることを憂い、安心して老後を過ごせる場づくりを主から示され、アメリカのシアトルにある「キングス・ガーデン」をモデルに、キリストの愛を土台とした老人ホームを造りました。その後「筑波」の理念に共鳴した各地にあるキリスト教主義のホームがゆるやかな連合を組み、今や「キングス・ガーデン連合」傘下の施設数は全国で約70に上っています。
資産も資金もなく、信仰と情熱を持って大事業に取り組んだ三谷夫妻は、私どもにとって大きな励みでした。早速「日本キングス・ガーデン連合」の泉田理事長をお訪ねして助言や励ましを頂きました。その後、田園都市沿線の教会の牧師会で証しをする機会が与えられ、その結果2012年10月に超教派のNPO法人「キングス・ガーデン神奈川」が誕生しました。毎月の例会には「キリスト教主義の施設建設を待っていた」とばかりに様々な職種や賜物を持った同労者が集まり、それぞれの思いやビジョンを語り合っております。

なぜ介護なのか

ここで、私がこのビジョン実現に導かれた背景を振り返ってみます。私は臨床心理士として川崎市の精神科リハビリテーション施設において、精神障がい者の社会参加を支援して参りました。人生半ばに心の病にかかり大きな挫折を体験した人々は、自信を失い、社会の偏見にさらされ引きこもり、ますます社会の片隅に追いやられてしまいます。そのような方々が再び社会参加しやすくなるようなプログラムを準備したり、トレーニングを行ったりしてきました。定年後も、地域の中にミニチュア社会のような地域活動支援センターやグループホームを造り、彼らの成長や社会参加を応援しております。
深く重い悩みを抱えているのは、障がいを負った当事者だけでなく、そのご家族も同じです。とりわけ親亡き後、我が子がどの様に生きていけるのか、死んでも死にきれないという思いの方もおられます。体験者でなければわかり得ない、重荷を抱えた家族のために、家族会を作って共に学び、励まし合っています。この息の長い繊細な支援を要する事に携わるとき、私の胸にあるのはマタイ25章40節の「あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。」
という主イエスのお言葉でした。
障がいがあるうとなかろうと、またクリスマスチャンであるうとなかろうと人は老い、終末を迎えますが、人はだれでも最晩年を穏やかに、

「イエス様の愛



に満ちた
介護の場を」



特定非営利活動法人
「キングス・ガーデン神奈川」
理事長 **大江 基**